



創立1880年

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel 03-6302-1960

URL <http://tokyo.ymca.or.jp/>

発行所 公益財団法人

東京YMCA

発行人 菅谷 淳

東京YMCA



2018年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

発達障がいのある子どもたちへの 社会性の指導

田中裕一氏（文部科学省 特別支援教育調査官） 講演

文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官（発達障害教育専門）。

11年間の教員時代に、兵庫教育大学大学院を修了し、国立特別支援教育総合研究所特別研究員を務める。特別支援教育士スーパーバイザー。

前職に知的障害者授産施設で5年間、一般企業での勤務経験もある。



田中 裕一氏

文部科学省の特別支援教育調査官で発達障がい教育が専門の田中裕一氏が、「発達障がいのある子どもたちへの社会性の指導」をテーマに6月17日、東京YMCA山手センターで講演。主に平成29年に改訂された「学習指導要領」について、その経緯や願いを熱心に解説されました。（まとめ・広報室）

私が以前、特別支援学校で教員をしていた時、どこにでも落書きをしてしまう小学3年生がいまいた。知的障がいがあった言葉がなく、さらに家から勝手に出ていってしまふので、保護者も私も困って、地域の民生委員や警察の方々にも協力をお願いし、皆で見守っていくことにしました。

この生徒が描いてくれた私の似顔絵が2枚あります。1枚は出会ってから一年後、私が担任でなくなる時に描いてくれたもの。もう1枚はその後、皆で支援して一年経った時のものなのです。が、あきらかに変わりました。その子に合った支援をしていけば子どもは

伸びていく。周囲の大人が、かわる人々があきらめなければ子どもは変わっていくんですね。私はいつもこの絵を見て自分にもそう言い聞かせています。

一人一人の教育的ニーズの把握

平成19年度から特別支援教育がスタートしました。その際にいろいろと制度が変わりましたが、一番重要なことは、「一人一人の教育的ニーズを把握すること」が盛り込まれたことだと思います。そして、平成29年3月に小・中学校等の「学習指導要領」が改訂され、特別支援教育に関し

てたくさん新しい内容が盛り込まれましたが、この改訂の一番のポイントは「組織的、計画的かつ継続的に指導や支援を行うこと」、その中でも「継続的」に行うことだと私は思っています。障がいの種別を含めて一人一人の実態をよく把握した上で、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成すること。そしてそれを、小学校から中学校、高校へと引き継ぎ、さらには医療機関や福祉施設、保護者や本人とも共有し、皆で連携をとりながら長期的に支援していくというものです。

◇ ◇ ◇

これまでも個別の指導計画等はありませんでしたが、義務ではなかったため作成されないケースも多く、引き継ぎが不十分なことが多々ありました。そのため、今回の改訂では特別支援学級や通級による指導の場を利用して子どもたちについている全員、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成することが義務づけられました。さらに昨年の6月に出された文部科学省の事務連絡では、通常の学級のみで学ぶ障がいのある子どもに対しては、例えば「医師による障がいの診断があれば作成しない」というような画一的な基準によって作成対象を限定しないよう、つまり通常の学級にいる子どもであっても必要であれば個別の教育支援計画や個別の指導計画

を作成・活用するよう努めることを示しました。一人一人の教育的ニーズを把握した上で、「情報共有し、引き継ぎ、つなぐ」ことが今の特別支援教育のキーワードになっていると思います。

社会性指導の際の留意点

さて、教育的ニーズを把握した上でどんな指導をするかですが、特別支援学校の学習指導要領には「自立活動編」が記されています。これは、障がいによって生じている学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導ですが、今まで6区分26項目だったものが、「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」という項目が加わり27項目になりました。特別支援学級や通級による指導等で自立活動が行われる際には、これらの項目を組み合わせて実施していきます。当然、社会性を育成する際にも同様に考えます。

この社会性を指導する際にも、実態把握と一人一人の教育的ニーズを把握することが重要になります。たとえば、あいさつを教える場合、単にあいさつの方法だけ教えても、学校の外ではできないとか、今日できても明日はできないなど、なかなか定着には至らないこともあるでしょう。やはり、なぜできないのか、あいさつする気がないのか、あいさつする人に気が付かないのか、どの場面であ

いのか、どの場面であさつができないのかなどをよく把握して指導を考える必要があります。その子どもの教育的ニーズ、例えば、子ども自身が今、あいさつのことでどのように困っているのかなども踏まえて指導内容や方法を考えます。また、個別の指導計画を作成して、通常の学級や家庭とも連携し、さまざまな場面であいさつを教えることが可能になれば、定着しやすくなります。

◇ ◇ ◇

もう一つ、社会性の指導には、子どもの将来像をどう見据えるかが重要になります。地域の作業所に勤めるのか、一般企業に就職するのかによっても必要とされる社会性は違ってきます。私は以前に知的障がい者の施設に勤めた経験上、最終的には30〜40歳くらいの、つまり保護者から独立した後の将来像を見据えて、そこから日々の指導の目標を逆算して考えていく必要があると思います。もちろん、将来像は変わっていきますから、定期的に見直す作業も必要になってきます。

またその将来像を、担任・保護者・本人で共有することも大切です。本人が、自分はどうなりたいから学校ではこれを学ぶといった目標意識をもつことは、本人のやる気や主体性にもつながり、授業で学んだことがより身に付きやすくなります。また授業の評価を行う際にも、本人が目標の

作成に参加していると、それを基に話し合っ、次につなげやすくなります。

学校だけでなく、地域全体で育む

もう一つ、学校の中でできる社会性の指導には限りがありますから、地域の理解、地域の風土も大切です。「新学習指導要領」には、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みである「交流及び共同学習」において「障害者理解教育」の必要性が記載されていますが、ぜひ心のバリアフリーを目指し、地域全体で取り組んでいく必要があります。

特別支援教育はまだまだ可能性があります。皆さんと一緒に多事例研究を積み重ね、質の高い教育を提供できるように頑張っていきたいと思っています。

東京YMCAの社会性トレーニングクラス

アスカクラス説明会・体験会実施中

東京YMCAの「アスカ」は20年余りにわたり発達障がいのある子どもたちの支援を行なっています。ただいま、高校生～大学生クラスの説明会・体験会を実施中です。

【説明会日時】 各回とも（日）11:00～11:30

9月23日、10月21日、11月11日、12月9日ほか

*体験会ほか詳細はお問合せください。

【問合せ】 東京YMCA高等学院

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12

TEL : 03-3202-0326 FAX : 03-3202-0329

<田中先生お勧めの資料>

◆新学習指導要領 平成29年3月

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

◆発達障害教育をめぐる諸課題

http://www.zentoku.jp/dantai/titeki/tanaka_180622_shiryo.pdf



*この講演会の開催にあたり、公益財団法人俱進会から助成いただきました。

赤△三角

写真家・公文健太郎氏の写真集「だいきなもの」のネパール・チャウコット村の子どもたち」という1冊があります。公文さんは、カトマンズから東に30キロの小さなチャウコット村を訪ね、村の仕事や遊び、お祭り、何でも一緒にやらせてもらったそうです。たくさんの子もたちと仲良くなつてその写真集は生まれました▼ページを開くと・ぼくは土がすき。家をたてるのにも土がいるし、食べものだって土からできているんだよ／おどること、うたうこと、勉強すること、それからなにか書くことがすきです／ひこうきがすき。パイロットになつて空をとぶんだ▼子どもたちの写真とともに、大好きなもの、次々と出てきます。私の心に温かいものがジワーと溢れました。大好きなものがあればきつと幸せに生きられる、そう確信したので

菅委員 長谷川あや子

第19回世界Y M C A大会

タイ・チェンマイで 7/8-14



→東京YMCAから参加した職員。写真右から菅谷淳総主事、押山愛紀子、中谷綾、田所悦子、松本数実。
↑開会式の様子。



ユースが世界を変える

権力でなく “愛の力”で世界をつなぐ

報告……国際部統括 松本 数実

4年毎に開催される「世界YMCA大会」が7月8日～14日、タイのチェンマイで行われ、世界80カ国以上のYMCAから1300人の仲間が集まった。日本からは東京YMCAの7人を含む39人が参加した。

第19回を迎えた今大会のテーマは「ユースエンパワーメントが世界を変える」。開会式、閉会式、朝のデイポジションの時にはバンドの素晴らしい演奏がされるなど終始熱気に包まれ、1300人が一体感を持ってYMCAを感じることができた。

会の進行は、「チェンジエージェント」と呼ばれる各国から選ばれたユースたちが担った。午前中は毎日3時間、15人程度のグループに分かれてのディスカッションタイムで、これもチェンジエージェント数人が各グループの司会を務めて協議を行った。ディスカッションのテーマは、自分のYMCAで若者に対してどのようなプログラムを行っているか、自分の国で若者はどのような環境に生きているか、今後YMCAが若者に対してどのようなプログラムを行うっていくことが必要か、といった内容であった。

参加者は各国のYMCAのスタッフ、ボランティア、委員などさまざまで、白熱した議論が続いた。私の参加したグループでは、YMCAに関わる人は世の中の変化に対して勇敢な人が多く、今後勇敢であることが必要である、という共通認識から、最終日の発表では、全員で「Brave (勇敢)」と書かれたTシャツを作成してプレゼンテーションを行った。前日に「Tシャツを作ろう！」という話になり、1日で作り上げたことは正に勇敢で結束力の高い証であった。

4日目の午後はエクスカーショントリップ（遠足）があり、20ものコースから希望の所に参加した。私は山岳民族の村を

訪問するプログラムを選んだ。百年ほど前に中国から南下してタイに移り住んだモン族の村を訪ね、村長さんと村の小中学生が案内してくれた。タイ語の他、モン語を話し、独自の文化を維持しながら暮らしていた。農業や縫製が生活を支えている。タイの国の現状を知るよい機会だった。

大会期間中、同盟組織としての役員選挙も行われた。世界YMCA同盟

会長にはカナダのパトリシア・ペルトン氏が女性で初めて選出された。常務委員23人も選出され、日本からは同盟委員の岡戸良子氏が選出された。また現在のヨハン・エルストもまた神でありながら権力によって人間を支配せず、人々に自由を与えて共に生きた。それは正に権力による力ではなく愛の力である。YMCAもまたこの愛の力を世界で実践しようとする団体である」という内容だった。

最初から最後まで全てにおいて圧倒される雰囲気の中で行われた大会だったが、私が最も印象的だったのは閉会式での総主事ヨハンさんの言葉だった。「この大会期間中、良い意味で一つだけ

感じられなかったことがあるとすれば、それは『権力』ではないかと思う。世界中の仲間が力関係ではなく、お互いを尊重しながら過ごした日々であった。イエス・キリストもまた神でありながら権力によって人間を支配せず、人々に自由を与えて共に生きた。それは正に権力による力ではなく愛の力である。YMCAもまたこの愛の力を世界で実践しようとする団体である」という内容だった。

日ごろから当然と思っているYMCAのミッションを、世界中の仲間と共に感ずることができたことに勇気と、パワーをもらうことができた大会であった。

子育てコラム



子育ての全般に関わる保育園として

連日、猛暑が続いています。我が家で育てているゴーヤも大きくなり、食べごろになってきました。実は私はゴーヤが苦手でしたが、今春、初めて沖縄県に行き、現地でゴーヤキャンプを食べたことがきっかけでゴーヤ嫌いを克服できました。沖縄で食べたゴーヤは格別に美味しくて、あの独特の苦味もあまり感じないほど新鮮で甘みもあり、箸がどんどん進みました。野菜嫌いの子どもたちにもぜひ

ひ、旬の野菜を食べて野菜嫌いを克服して欲しいと思います。子どもの健全な成長に食育は大切なものです。朝食欠食・偏食などは、肥満やアレルギーといった問題にもつながります。子どもたちが楽しく、バランス良く、おいしく食べるということとは、とても重要な保育目標です。けれども子どもたちは、「嫌いなものも食べなさい」と言うだけでは食べてくれません。子どもが何でも自発的に食べたいと思うためには工夫が必要で、そのため私たち保育士・栄養士・看護師は、皆で知恵をしぼって毎日子どもたちに向き合っています。

保育園は子どもを預かるだけではなく、保護者と一緒に子育てに不安や悩みの多い時代、在園児の保護者だけでなく地域の皆さまと一緒に、笑顔で子育てできるよう、お手伝いできる保育園でありたいと考えています。

YMCAキヤナルコート保育園
主任 植村 香

■ワールドチャレンジ2018 “世界12万kmを走る”

YMCAがロンドンで誕生した6月6日を記念して毎年、世界中のYMCAで一つのアクションを起こす「ワールド・チャレンジ」。これまでバスケットボールやサッカーのシュートなどに取り組んできましたが、今年のテーマは“Run to the YMCA World”。世界中のYMCAをつないだ距離およそ12万kmを、世界の仲間たちで走ったり歩いたりしてつなごうというもの。日本のYMCAは6月2日～15日、東京からジュネーブまでの約9,600kmにチャレンジした結果、目標をはるかに超える16,004kmを達成。中でも東京YMCAは、インターナショナルスクール(TYIS)の生徒たちや保育園の園児たち（＝写真）、医療福祉専門学校生などが日々のお散歩や体育授業などでの走行距離を積み上げ、8534.2kmの記録となりました。各国からも随時、写真や動画で進捗が投稿され、まるで世界各地を周遊するようなイベントとなりました。



総主事カフェ

東京YMCA総主事

菅谷 淳

総主事カフェにようこそ。

最近、2年前に88歳で亡くなった父のことをよく思い出します。脳梗塞で倒れ、いったんハビリで少し元気になりましたが、転んだ拍子に頭を打ち、そのまま天国に行きました。父は生前、「自分は今までに三

前後の人は亡くなったとのことでした。幸運だった自分の人生、こんなに長く生きられたのは「儲けもの」だったとよく家族に話していました。

た。父は生前、「自分は今までに三回死んだ。だからいつ死んでも惜しくない。」と言っていたのを思い出します。一つ目は生まれた時。未熟児で生まれ、小学生までは生きられないだろうと言われたとのこと。二つ目は戦中、実家の埼玉県川口市から学徒動員で横須賀の工場に駆り出された時、お腹を壊して実家に帰っている間に艦砲射撃で同級生は皆死んだそうです。三つ目は20代で結核を病んだ時。生存率の低い片肺をつぶす手術をしたが、同じ手術をした

父はお酒が大好きで、そのせアレルギーがあり、いつも夜になると大きなクシャミをしていました。当時子どもだった私も母も「うるさいなあ」と思っていました。私がそのクシャミを受け継いだようです。妻が「うるさいなあ」と言うのです。それだけでありません。クシャミの音質も音量も、顔や仕草まで父に似ているのです。「それはそうだよ、親子なんだから」と思えますが、私はハツとしました。いつ死んでもいいと話していた頃の父は今の自分より若かったことを思い出

しました。父はキリスト教はもちろん、宗教を信じていませんでしたが、三度の危機を乗り越え、今まで生きて来れたことを感謝して死を迎える準備をしていました。「果たして自分はそういうになれるだろうか」、そう考えると自分の信仰生活の本質が揺るような気がします。いつまでも生きたい、長く生きたい、その欲望はいつまで自分の中にあるのでしょうか。「生きる」ということを無限で考えてはいけません。私たちは死を迎える準備をしなければいけません。そのためには今まで生きられたこと、家族や周りの人たちが助けてくれたこと、何より父と母が自分を生み育ててくれたこと、そのことに感謝して来るべき日に備えていきたいと思えます。今頃天国で父はクシャミをしているかもしれませんね。

江東区東雲児童館

「防犯功労賞」受賞

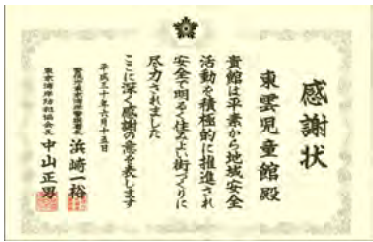
子どもたちのゴミ拾い活動等に感謝状



今年2月のピンクシャッデーでは、ピンクの服でゴミ拾いしました。

東京YMCAが指定管理者として運営する「江東区東雲児童館」が6月15日、東京湾岸警察署から「防犯功労賞」をいただきました。

この賞は、日頃から地域安全や防犯活動に功労があった団体・個人に贈られるもので、児童館に来る小中学生が毎月行なっている近所の清掃活動「東雲クリーン大作戦」と、児童館職員が週1回実施している「下校時防犯パトロール」が評価され受賞となりました。



子どもたちは「自分たちで出したゴミではないけれど、自分たちが遊ぶ公園がきれいだと気持ちいい」と、毎月欠かさずに実施。2016年からは年に1回、自治会や保護者と一緒に、近隣の道路や歩道の植え込みなど、範囲を拡大して「ピッカピカ大作戦」に取り組んでいます。

なお、東雲児童館は5年前にも同賞を受賞しており、2度目の表彰となりました。

この5年間で延べ参加者は618人。みんなの地道な努力が表彰されました。



↑改訂された「ウォーターセーフティーハンドブック2018」↑
下記からも無料でダウンロードできます。
<http://tokyo.ymca.or.jp/wellness/watersafety.html>

⇒黒ひもを巻き付けたフープをくぐって「海藻体験」。



子どもたちを水の事故から守るため全国YMCA
Aは6月17日、各地で一斉に『水上安全キャンペーン』

全国で講習会

親子で着衣泳体験も

水難事故から子どもを守る「水上安全キャンペーン」

『イン』を開催し、事故に遭わないための知識を伝えると共に、着衣泳など講習会を実施しました。この『水上安全キャンペーン』は1981年から30年以上にわたって毎年6月に行なっているもので、現在では各教育委員会の後援も得て、小学校等での出前授業やハンドブックの無料配布など、広く地域の子どもたちを対象に開催しています。

東京YMCAでは山手（高田馬場）とウエルネス東陽町（江東区）の2カ所を実施。一般の幼児・小学生やその保護者を対象に、海や川に転落してしまつた時に最低限必要な泳力を身につける「20mチャレンジスイム」のほか、ウエルネス東陽町では、ご家族で水辺の遊びを楽しんでほしいと願い、保護者の方も一緒に着衣泳体験に参加いただきました。服を着たまま水に入ったときの動きにくさを体験したほか、海藻に見立てた障害物の中を歩いたり、石の上を歩いたり、また溺れている人に浮き具を投げつける練習などもしました。

インターナショナルフェスティバル

英語講師らが母国文化を紹介



⇒ニュージーランド出身の講師は、現地のお菓子と、キーウィのクラフトを紹介

子どもたちに異文化体験を楽しんでほしいと6月16日、東陽町語学教育センターで「インターナショナル・フェスティバル」を開催。今年もまた英語教員や留学生たちが、母国の遊びや食べ物、言葉や服装などを紹介し、子どもたちも興味津々。

展示に、参加した40人の子どもたちは興味津々。民族衣装の「顔はめパネル」の前では写真を撮影する親子も多く、YMCAならではの「世界旅行」を楽しみました。テレビやネットなど、情報が豊富な時代ではありますが、実際に人と触れ合つて体験すること、さらに世界への興味や視野を広げていくきっかけになればと願っています。

西日本豪雨災害 復興支援募金

西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」の災害復興支援のため全国YMCAは、特に被害が大きかった広島県ならびに岡山県を中心に、子どもたちの心のケアなど支援活動の中長期的に展開してまいります。



ご支援ご協力をお願いします。

【募金方法】

三井住友銀行 神田支店 普通7656469
公益財団法人東京YMCA

※お名前の前に「ニシニホン」とお書きください。

【お問合せ】 東京YMCA会員部

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6階
TEL 03-6278-9071 E-mail: kaiin@tokyoymca.org
URL: <http://tokyo.ymca.or.jp/>

ご協力感謝

街頭募金に100万円 会員等214人で呼びかけ

東京YMCAは都内6カ所で7月18日～22日、街頭募金を行いました。連日の猛暑でしたが、YMCAの園児や学生、ボランティア、会員、職員など総勢214人が街頭で呼びかけたところ、多くの方がご協力くださり、募金額は1,000,737円にのびりました。



皆さまの温かなご支援に心より感謝申し上げます。

シリーズ

資料室の窓から(102)

資料室と『紀要』と夏

本会元副総主事

齊藤 實

このコラムは、東京YMCAの歴史景観を文字で再現する装置である。1996年6月にはじまり、すでに22年に及ぶ。コラムが発信しているのは、この国が「帝国時代」から「民主国時代」に移行しており、すめられたYMCA活動はそれぞの時代に色濃く染まるという「歴史の背景」をも心に収める「学び直し」である。「東京YMCAが誇る？ 装備・東京YMCA総合研究機構」と一体の「東京YMCA資料室」からの発言である。東京YMCA資料室が所蔵している諸資料に隠れている「時代の景色と気配に支配された状況」を「必要な情報」に置き直し続けている。日本のYMCAが現存する唯一の「YMCA資料室」からの「史料発信」なのである。

東京YMCA運営組織図によれば、総合研究機構も資料室も「本部事務局」のひとつ機能である。東京YMCA本部が占める施設面積のほぼ1パーセントという広いスペースに史料資料を収め、YMCA史学会

の事務所をも併せ持つ大きな機関である。既刊の『東京YMCA総合研究機構紀要』では、東京YMCAがすすめる働き関連の「研究的所論」を掲載して、YMCA活動の継承に資している。さて、夏が来た。YMCAの夏は組織キャンプである。紀要全9巻の中に、「キャンプ」を取り上げた所論が8編ある。1996年発行の第2号では、『キャンプとキリスト教』その関わりについての一試論を丹羽清治牧師が提言した。『東京YMCA山中キャンプの75年』は、東京YMCAがキャンプ地を如何に保持してきたかその一例を示して2000年7月に齊藤實が書いた。全8編中の2編を副総主事星野太郎が書いている。『YMCA野外教育の方向性―YMCA組織キャンプの検証を通して』他である。『東京YMCA総合研究機構紀要総目次』が出来る。資料室への来訪歓迎。